

# TOWARD THE NEXT STAGE

みんなで作る「新しい文化会館」の取組状況をお届けします

2023.04

Vol. 4

飯田文化会館

## ニュースレター

TAKE FREE

第5回 飯田市新文化会館整備検討委員会

「302は17  
277は17  
277は17」  
大切にして

検査

日常の場所  
に  
自分の  
日常の場所  
に

検査

非日常の  
特別な世界

「飯田文化会館  
整備検討委員会」  
の  
取組

非日常の中に  
どうやって日常を  
取り込んでいく。

新しい文化会館での  
必要の活動は？

検査



Report  
WorkShop  
Vol.5

2/3 Fri 第5回 飯田市新文化会館整備検討委員会

つくるのではなく できていくことを大切にする

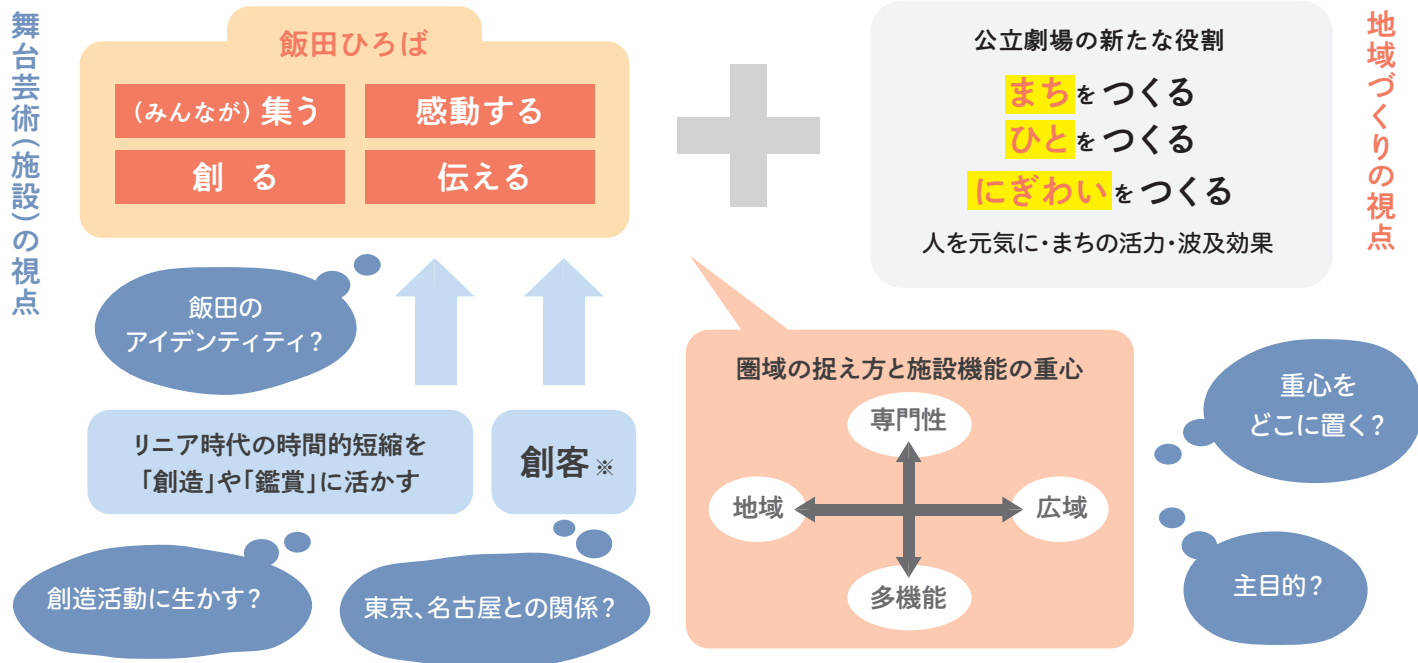
第5回整備検討委員会を2月3日に開催。前回の学習会でまとめられた3つのポイントを踏まえながら「新しい文化会館の活動内容」について話し合い、基本構想を検討しました。

活動内容を考える3つのPoint (11月25日の学習会より)

- Point 01 戦略的活用 ..... 「まち、賑わい、人をつくる」という役割をどう劇場に持たせるか
- Point 02 リニアの時間距離短縮の活用 .. 人を呼ぶという手段だけではなく、創造活動にどう生かすか
- Point 03 施設の専門性と多機能性 ..... 飯田周辺エリアを主対象とし「主目的+専門的小ホール」の考え方

新しい文化会館の基本理念(仮)

みんなが集い、創り、伝える 感動の 飯田ひろば



※創客とは: お客様を創り出していくこと。舞台芸術の鑑賞や創造活動を通じて、劇場のファンになって応援してくれる関係性を構築すること。

飯田らしい「公立劇場の役割」を考えてみると・・・  
**ひと**を育み **まち**を育み **活力**を生み出す  
 人を元気に・まちの活力・波及効果



## 話題提供 | 若者たちの願い

## 日常的な居場所にしたい

桑原利彦委員からの話題提供として、昨年9月に実施された「BUNKAミーティング」での若者たちの生の声が紹介されました。

「いろんな人たちと出会える場所にして欲しい。新しいものをちょっとやってみてみたいと思ったときに、それを実現できる場所

になればすごく嬉しいなあという声 that 特に印象的だった。若者たちにとっても文化会館を自分たちの日常的な居場所にしたいという願いの現れではないか」と話しました。

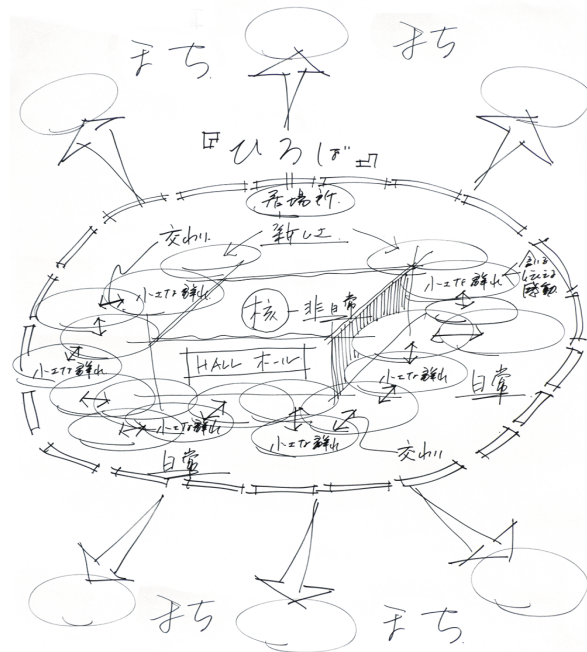
## 意見交換

## 新しい文化会館に必要な活動とは

5つの班に分かれて、舞台芸術(施設)の視点と地域づくりの視点で意見交換。新しい文化会館に必要な活動について「日常の中にある文化を介在して、人と人がつながっていく。地域の中で市民が文化的なものに巻き込まれていく」という「飯田らしい文化施設」のイメージが共有されました。

### 小さな日常を取り込む(1班)

これまでの文化会館は、大人数が集まる大きな活動が多かった。これからの時代は、様々な分野の小さな活動がたくさんあることも大切。非日常の中に日常をどうやって取り込んでいくのかが、新しい文化会館に求められているのではないかと。



1班が発表したイメージ図

### 非日常を取り巻く日常(2班)

日常と非日常を外・中・内の空間的な視点から捉えて、外では楽器を演奏したり、踊ったりする広場。中には、コーヒーを飲んだり、しゃべったりする多目的な空間。さらにその内側には、専門的なホールで非日常の特別な世界が広がっている空間をイメージした。

### 人が集まりつながっていく(3班)

心の充実こそが賑わいである。数人が集まってつながっていく。日常の中にそういう場があるっていうのが、賑わいの一つのあり方ではないか。色んな人が集うことで、新しいつながりが生まれる楽しい場所になると思う。

### 楽しみが育つ場所(4班)

老若男女、家族連れも来て、そこでやっていることでつながる。興味を持ったなら自分もやれるような場所。自由に楽しみが育つ場になって欲しい。

### まちとのつながり(5班)

飯田下伊那の伝統芸能などの情報発信や研究の場になる。コンサートの後に美味しいものが食べられるようなまちとのつながりがあったりするのも面白い。

人形劇や公民館活動など、「飯田らしさ」と呼ばれるものが続いてきた理由は、やらされているからではなく自分たちが「楽しい」、「面白い」と思えるから。

「つくるんじゃなくて、できていくっていうことを大切にしたい」

という地域づくりへの思いが意見交換会の中で話されました。基本構想の策定も「つくる」ではなく、みんなできりあげてできていく。そうした飯田らしいボトムアップの積み上げによる議論が重ねられています。



## 飯田文化会館 今昔物語 vol.3

2月5日、NHKのど自慢が25年ぶりに飯田文化会館で開催されました。前日の予選を勝ち抜いた18組の皆さんが熱唱。司会の小田切千アナウンサーやゲストの水森かおりさん、北島兄弟の北山たけしさんと大江裕さんの掛け合いで会場は大いに盛り上がり、その様子は全国へ発信されました。

過去を振り返ると、文化会館がオープンした年の昭和47(1972)年5月7日放送回には、ゲストに都はるみさん、美川憲一さんを迎え、飯田で初めてのど自慢を開催。平成10(1998)年11月1日には、瀬川瑛子さんと山川豊さんをゲストに迎え、20組が歌唱を披露しています。



南信州新聞 昭和47(1972)年5月8日



広報いいだ 平成10(1998)年12月1日号

### 昔の思い出写真 募集しています

### あなたと文化会館の思い出を、このニュースレターで紹介しませんか？

写真と一緒に、撮影年月とエピソードを書いて文化会館事務局までお持ちください(写真はコピーでも可)。写真データがある場合は、メール送付でも受け付けます。件名を「思い出の写真」と表記して、お名前と連絡先(受信可能なメールアドレス、電話番号)を必ず記入の上、お送りください。

飯田文化会館「思い出の写真」係 宛 [✉ ibunka@city.iida.nagano.jp](mailto:ibunka@city.iida.nagano.jp)

## Infomation

### 飯田文化会館情報誌「toi toi toi！」創刊

飯田の芸術文化が育てられてきた土壌や背景を振り返りながら、過去と現在と未来を繋ぐための情報誌を創刊。「トイトイトイ」と発音するこの言葉は、世界中の舞台で使われている幸運や成功を祈る「おまじない」。「to i」愛の方へ、私(i)の方へ、飯田(IIDA)の方へ、という意味も込められています。

この情報誌では、飯田の芸術文化に携わる方や地域の文化を支えてきた方、新しい時代を担っていく方などの活動をご紹介します。文化会館や公民館、図書館、市役所などで配布中。ぜひ手にとってご覧ください。

飯田文化会館では、情報誌の制作や広報活動にご協力いただける方も募集しています。ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。



B5 版カラー・16 ページ